

ニチレイロジグループ

2023年度事業報告会

2024年5月20日

1. 企業概要
2. 2024年3月期 決算概要
3. 中期経営計画
 - ①進捗状況
 - ②2024年度重点施策
4. 参考資料

[組織体制]

(株)ニチレイロジグループ本社（持株会社）

子会社41社 関連会社8社

地域保管事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株)ニチレイ・ロジスティクス東北

(株)キョクレイ

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西

(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

物流ネットワーク事業

(3PL・運送・流通・加工)

(株)ロジスティクス・ネットワーク

(株)NKトランス

エンジニアリング事業

(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング

欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.

HIWA Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Thermotraffic B.V.

Thermotraffic Ltd.

Thermotraffic GmbH

Frigo Logistics Sp.z o.o.
Armir Logistyka Sp. z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

海外事業

中国事業

日冷物流投資（上海）有限公司

上海鮮冷儲運有限公司
上海鮮榮運物流有限公司
江蘇鮮華物流有限公司
南京鮮華物流有限公司
浙江鮮一百物流有限公司

タイ事業

SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.

マレーシア事業

NL Cold Chain Network(M)Sdn.Bhd.

NL Litt Tatt Group Sdn.Bhd.
Litt Tatt Enterprise Sdn.Bhd.
Litt Tatt Distribution Sdn.Bhd.

ベトナム事業

Nichirei TBA Logistics Vietnam LLC

1. 企業概要

2. 2024年3月期 決算概要

3. 中期経営計画

① 進捗状況

② 2024年度重点施策

4. 参考資料

[ハイライト]

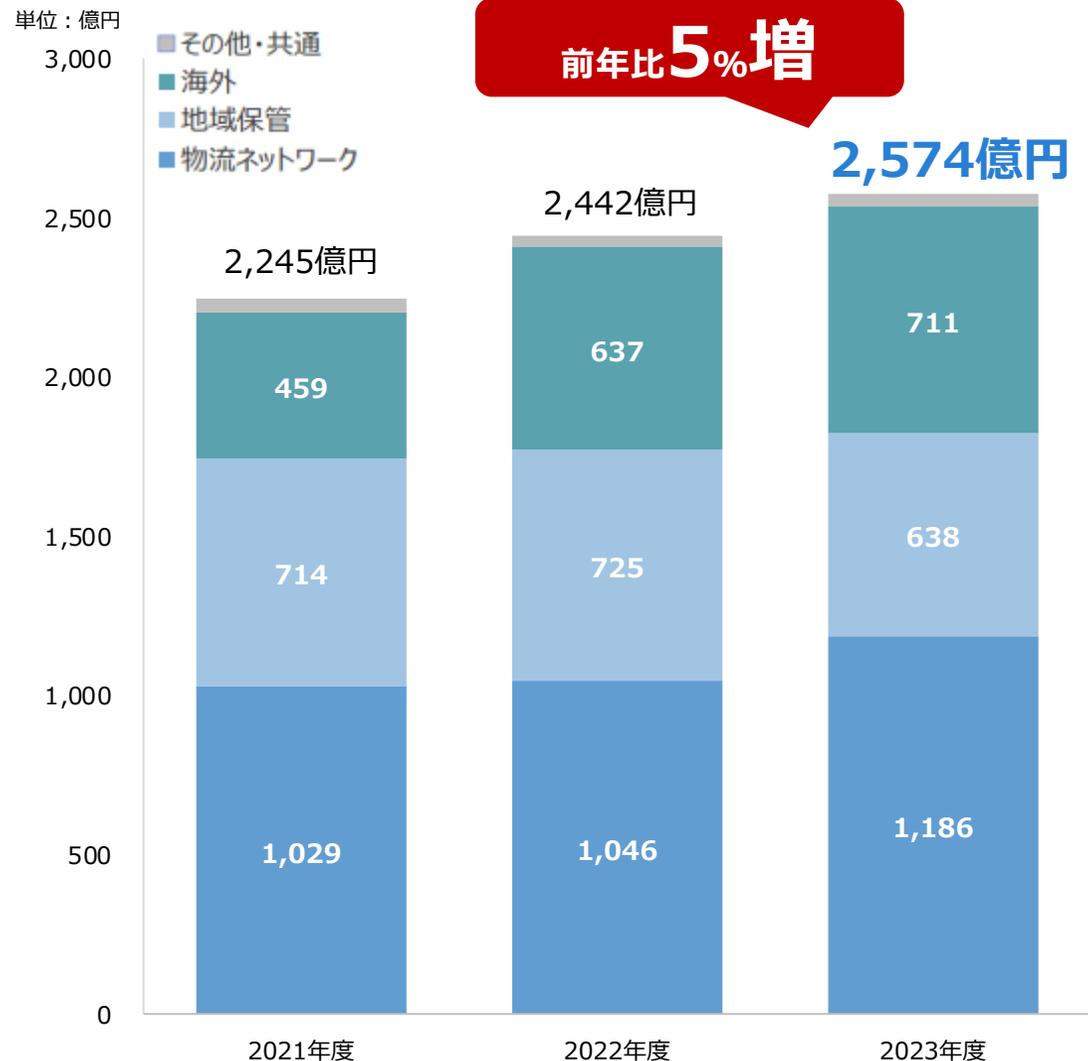
連結	国内の集荷・効率化施策と海外事業エリア拡大により増収増益		
	売上高	: 2,574億円	前年比 5%増
	営業利益	: 158億円	前年比 5%増
物流 ネットワーク 事業	冷食物流プラットフォーム・輸配送・リテール（TC）の取扱いが拡大		
	売上高	: 1,186億円	前年比 4%増
	営業利益	: 65億円	前年比 6%増
地域保管 事業	荷動き鈍化・コスト上昇影響を適正料金収受・業務効率化で吸収		
	売上高	: 638億円	前年比 2%増
	営業利益	: 74億円	前年比 –（前年並み）
海外 事業	欧州エネルギーコスト安定化とタイ・マレーシア連結化により大幅伸長		
	売上高	: 711億円	前年比 12%増
	営業利益	: 36億円	前年比 48%増

注：物流ネットワーク事業に地域保管事業の業務を一部移管したため、前期の数値を移管後の数値に組み替えて比較

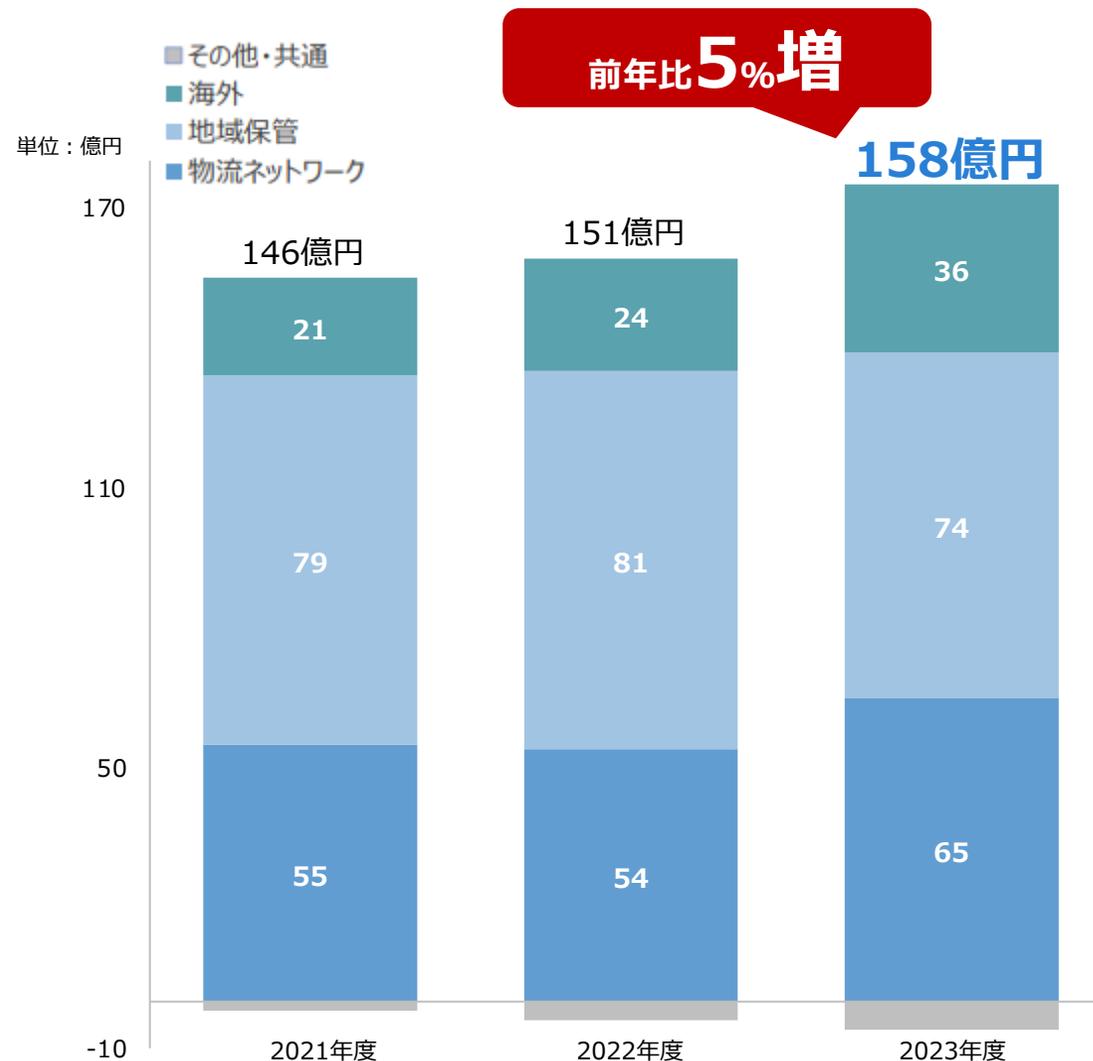
2. 2024年3月期 決算概要

[連結業績]

売上高推移

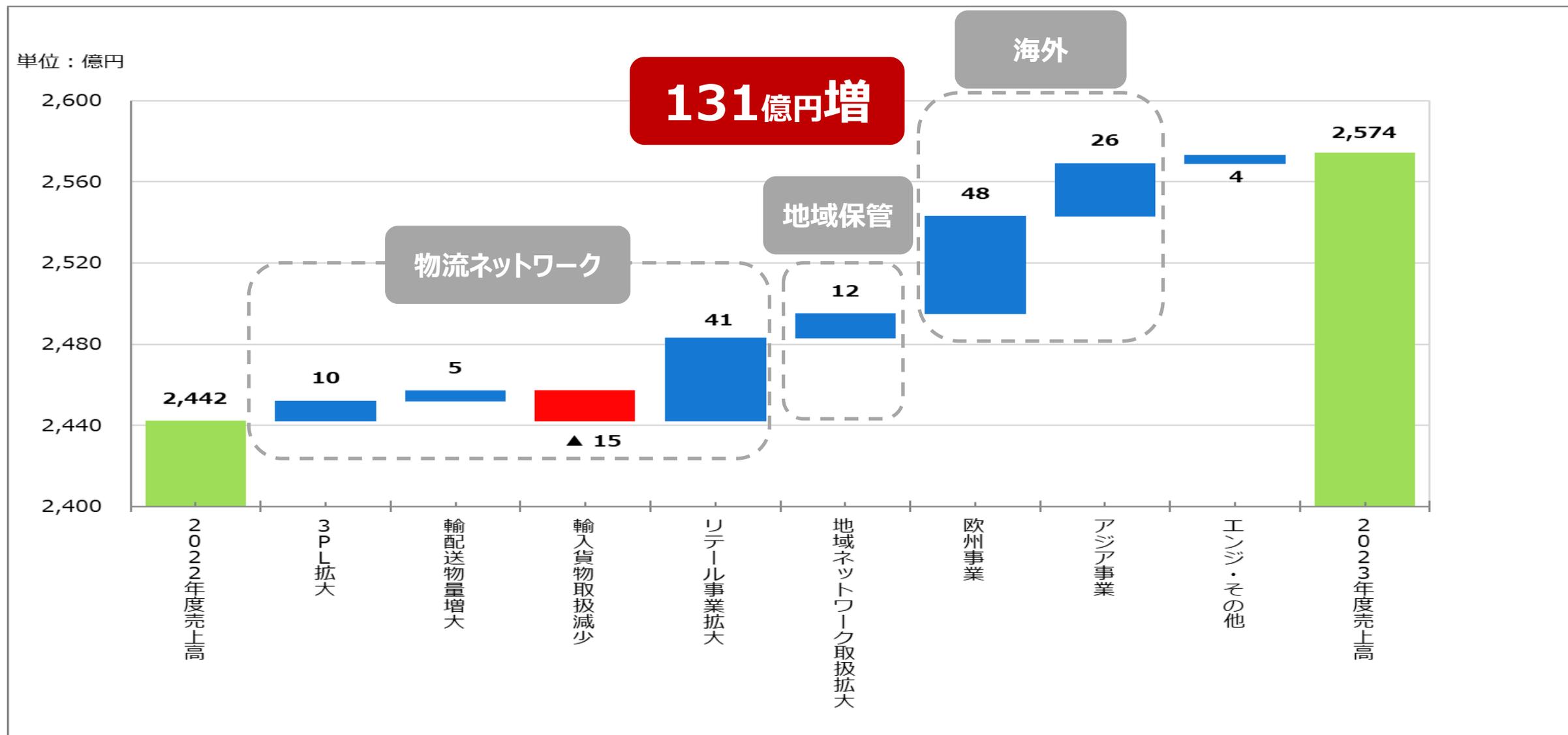


営業利益推移



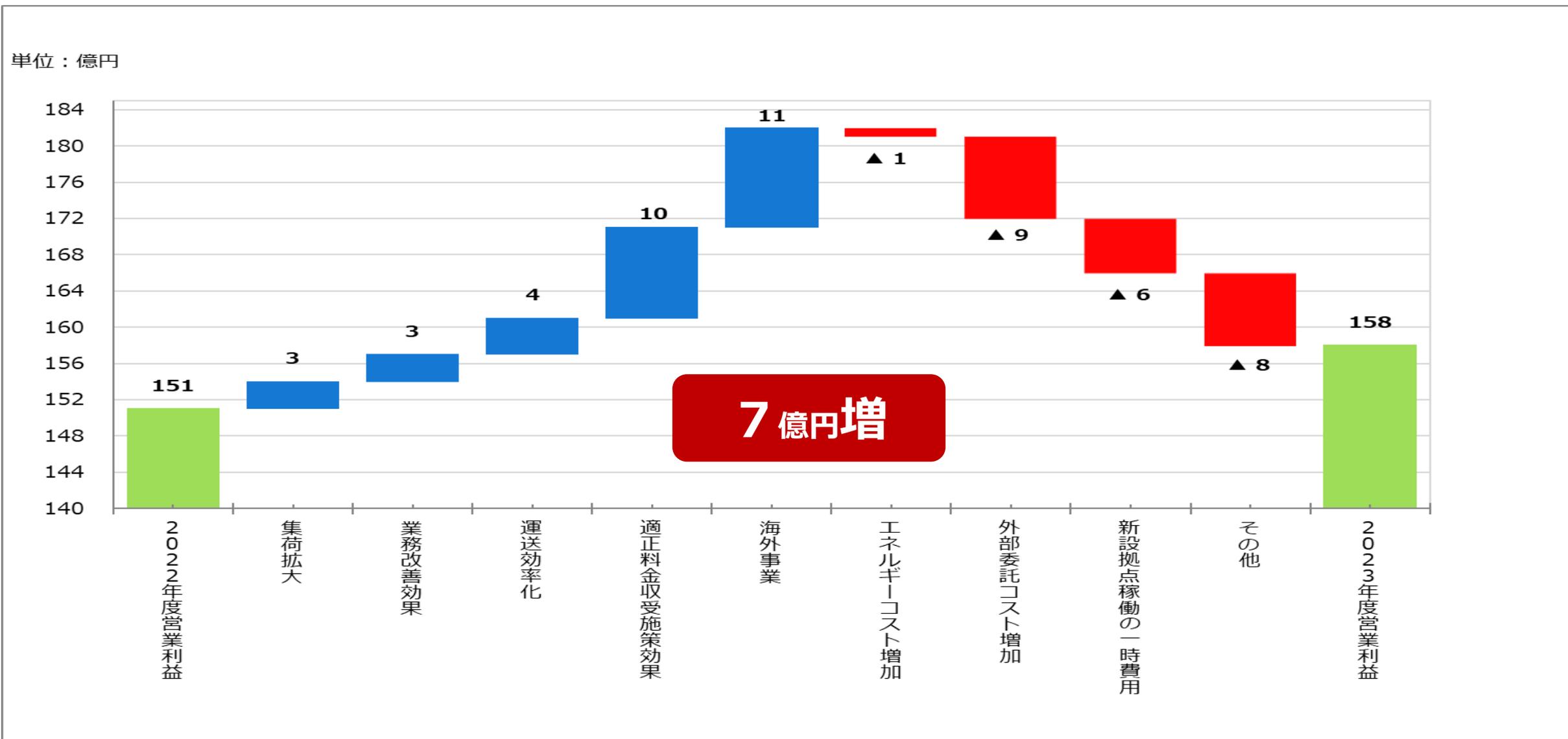
2. 2024年3月期 決算概要

[連結：売上高の増減要因]



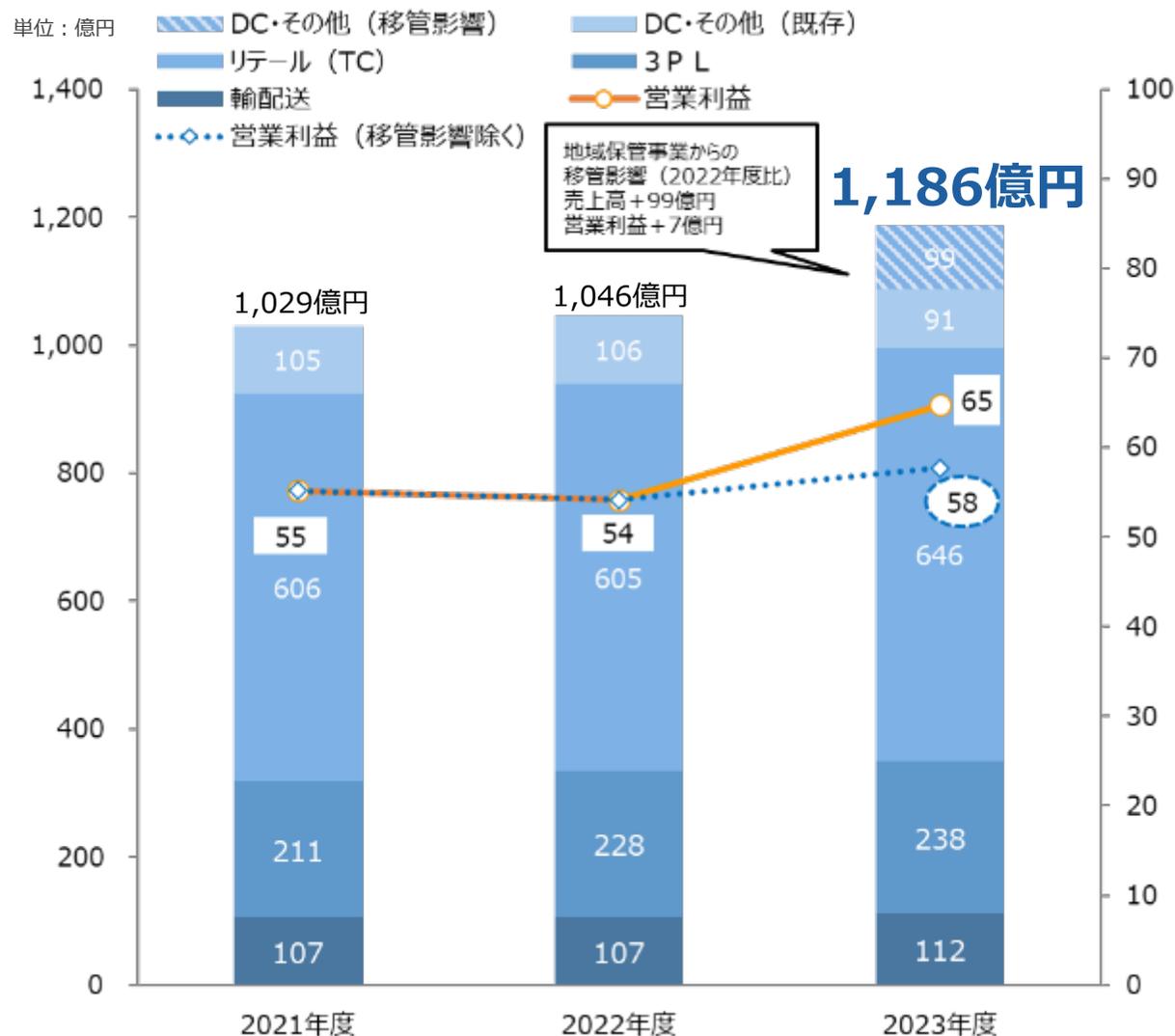
2. 2024年3月期 決算概要

[連結：営業利益の増減要因]



[物流ネットワーク事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

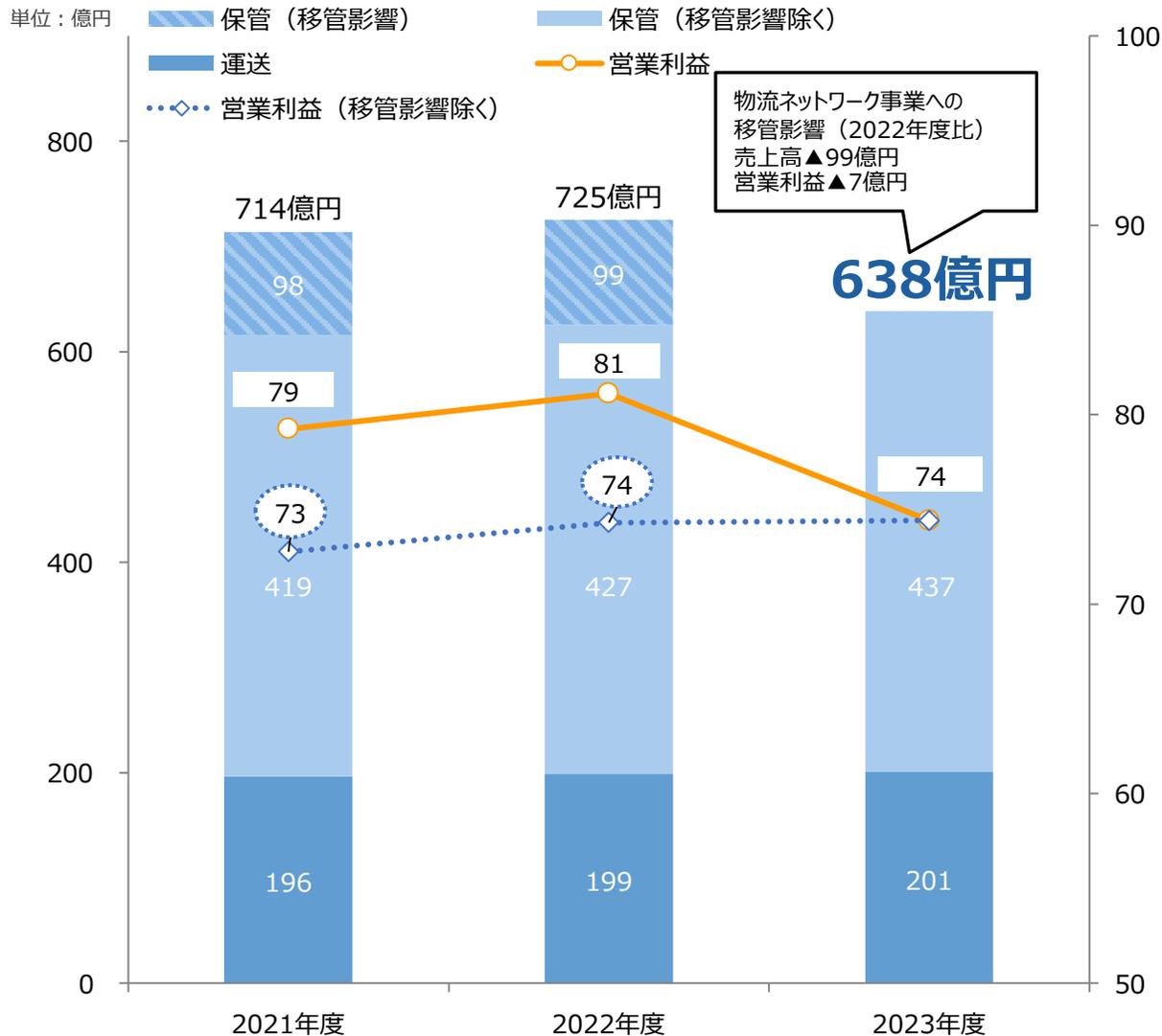
輸入貨物の取扱量が減少するもリテール・3PL・

輸配送事業の伸長が貢献し増収増益

- DC事業
 - 港湾拠点において輸入貨物の取扱いが減少
- リテール (TC) 事業
 - 新設拠点の稼働に加え、拠点間横持、店舗配送車両を活用した集荷拡大を推進
- 3PL事業
 - 関東・関西において新たに他社アセットを活用した冷食物流プラットフォームが拡大
- 輸配送事業
 - 「SULS」(サルス)運行エリアの拡大と集荷獲得に注力

[地域保管事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

物価高による荷動きの鈍化、各種コストの上昇影響を適正料金収受と業務効率化施策がカバー

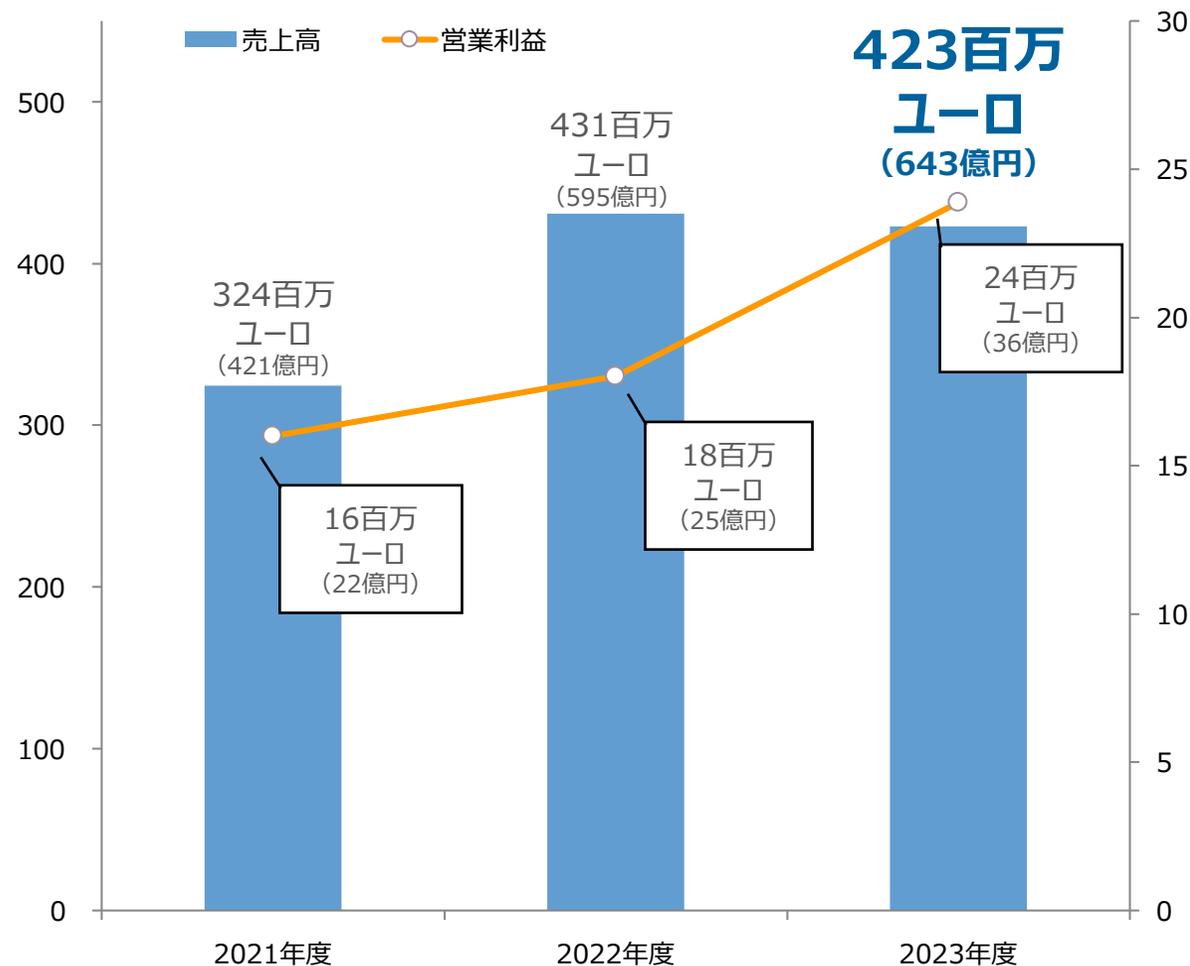
- 全体
 - エネルギーコスト、庫内作業・庸車など外部委託コストの上昇に応じて適正料金を収受
- 保管
 - 荷動き鈍化の影響を受けたものの、貨物再編や再保管運用の効率化、新規貨物・付帯業務の獲得に注力
- 運送
 - 物量減少、積載効率悪化も不採算業務の見直しや保管顧客への配送業務提案を推進

[欧州事業]

売上高・営業利益推移

トピックス

単位：百万ユーロ



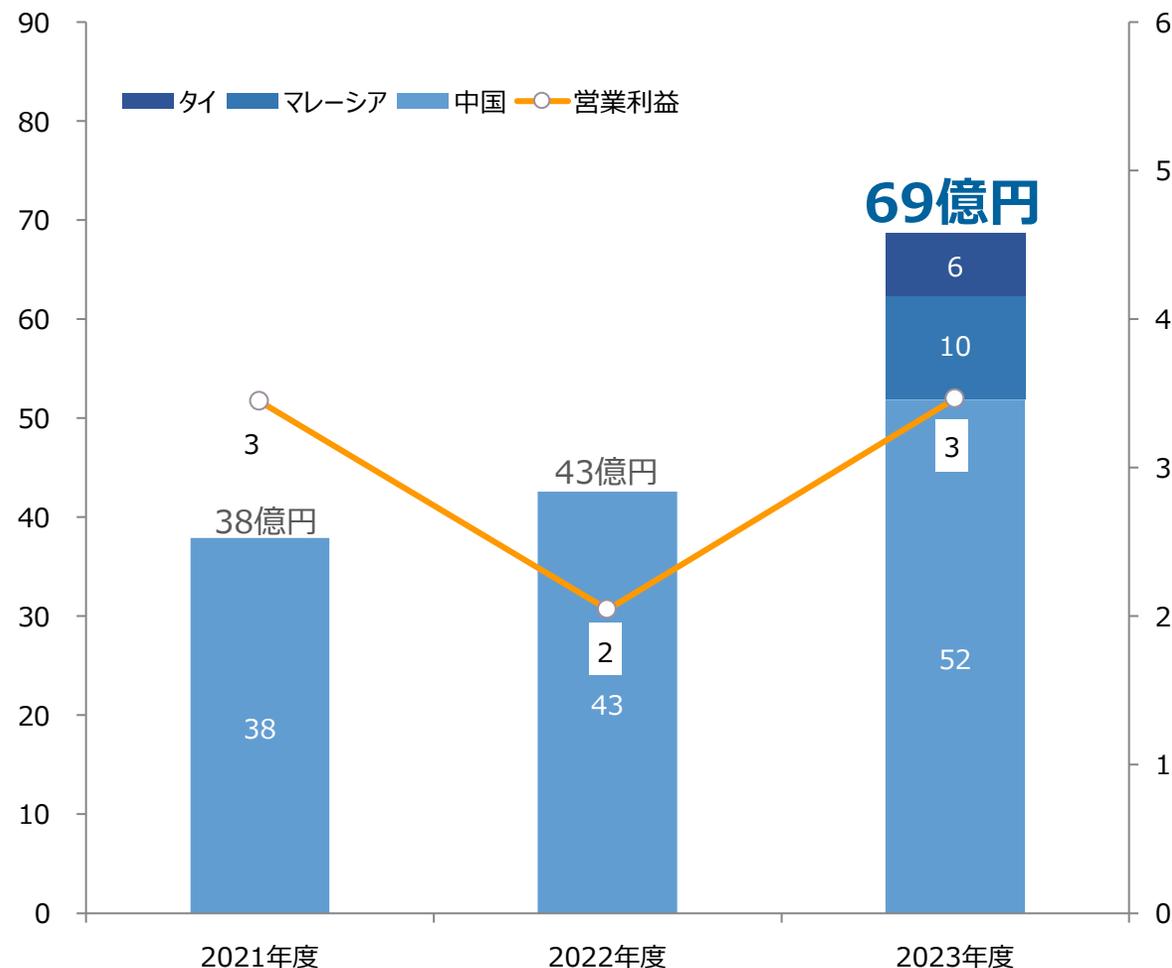
インフレ下で消費減退も電力価格下落と付加価値サービス需要増、車両高度活用が寄与し大幅増益

- 全体
 - ・ 高インフレ進行による消費の減退、荷動き鈍化
- 保管事業
 - ・ 電力価格水準がウクライナ情勢悪化以前まで低下
 - ・ 新增設拠点安定稼働と付加価値サービス需要増大
- 輸配送・通関事業
 - ・ 鶏肉・豚肉の需給変化に伴う輸出入取扱減少
 - ・ 自社車両の高度活用により、庸車市場動向に左右されずにサービスを安定的に提供

[アジア事業]

売上高・営業利益推移

単位：億円



トピックス

タイ・マレーシア関連会社の連結子会社化により事業エリアと規模の両面を拡大

- タイ
 - ・ 鶏肉、果汁、ペットフードなど海外輸出需要が堅調な貨物の集荷拡大に注力
- マレーシア
 - ・ 畜産品を中心とした旺盛な冷凍品保管需要を取り込み高在庫水準を維持
- 中国
 - ・ 年初のコロナ感染爆発以降、感染拡大収束に伴う反動により物量回復

- コーポレート・ブランド向上に向けた企業CMの制作及び積極的な露出の実施
- 低温物流事業の高い社会貢献性や当社の独自性をメッセージとして発信

—従来の業界イメージ—

・“3K” + 低温環境のイメージが先行



企業CMにおける訴求ポイント

・ロジグループが打ち出す先進性と企業姿勢を企業メッセージとし、低温物流事業の新たな魅力をアピール

先進性

企業姿勢

低温物流に最先端技術を導入

「利用体験価値」を生む
意識や行動の実践

期待を上回る
提案

災害時の迅速
な復旧対応

現場の清潔さ

丁寧な
あいさつ

ミスの少なさ

ワンストップ
サービス

- 「業務改善のだれでもできる化」に向けたRPAの定着
- 多様な働き方の実現に向けたダイバーシティ推進活動の継続

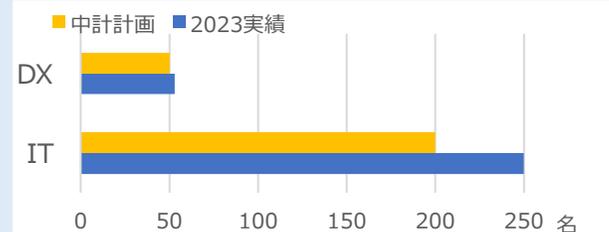
RPAの定着による創出時間の活用

事務業務のRPA化定着

・事務従業員一人当たりの年間平均労働時間の10%超に相当する時間を創出



●DX人材の育成強化（ロジグループ独自の人材育成プログラムの展開）



中計目標（DX50・IT200）を前倒して達成

DX **53名** IT **250名**

ダイバーシティの推進

女性活躍の推進

・女性の多様な活躍に向け、各階層に応じた研修や交流の場を設定



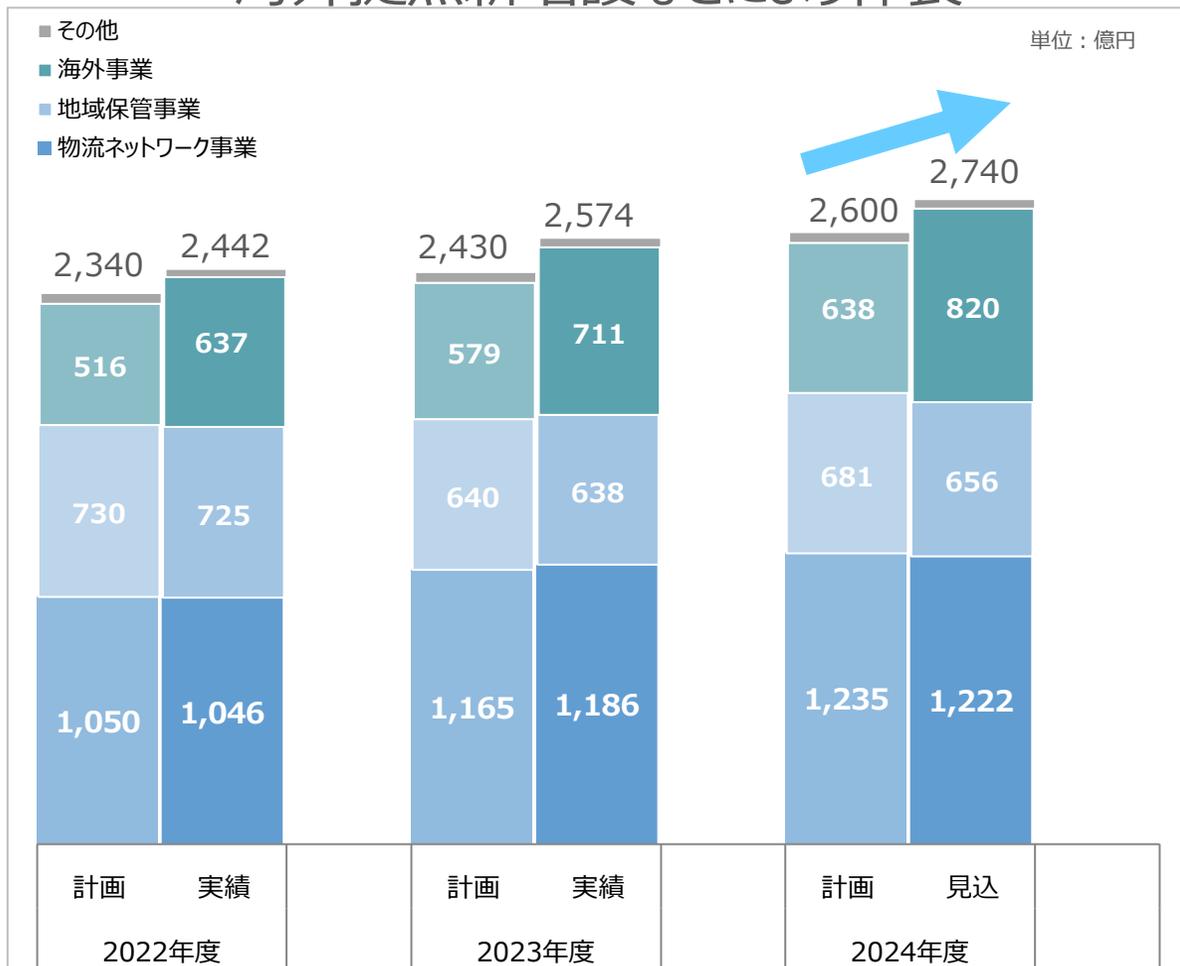
1. 企業概要
2. 2024年3月期 決算概要
3. 中期経営計画
 - ①進捗状況
 - ②2024年度重点施策
4. 参考資料

3-①. 中期経営計画（2022-2024）進捗状況

[業績進捗]

売上高

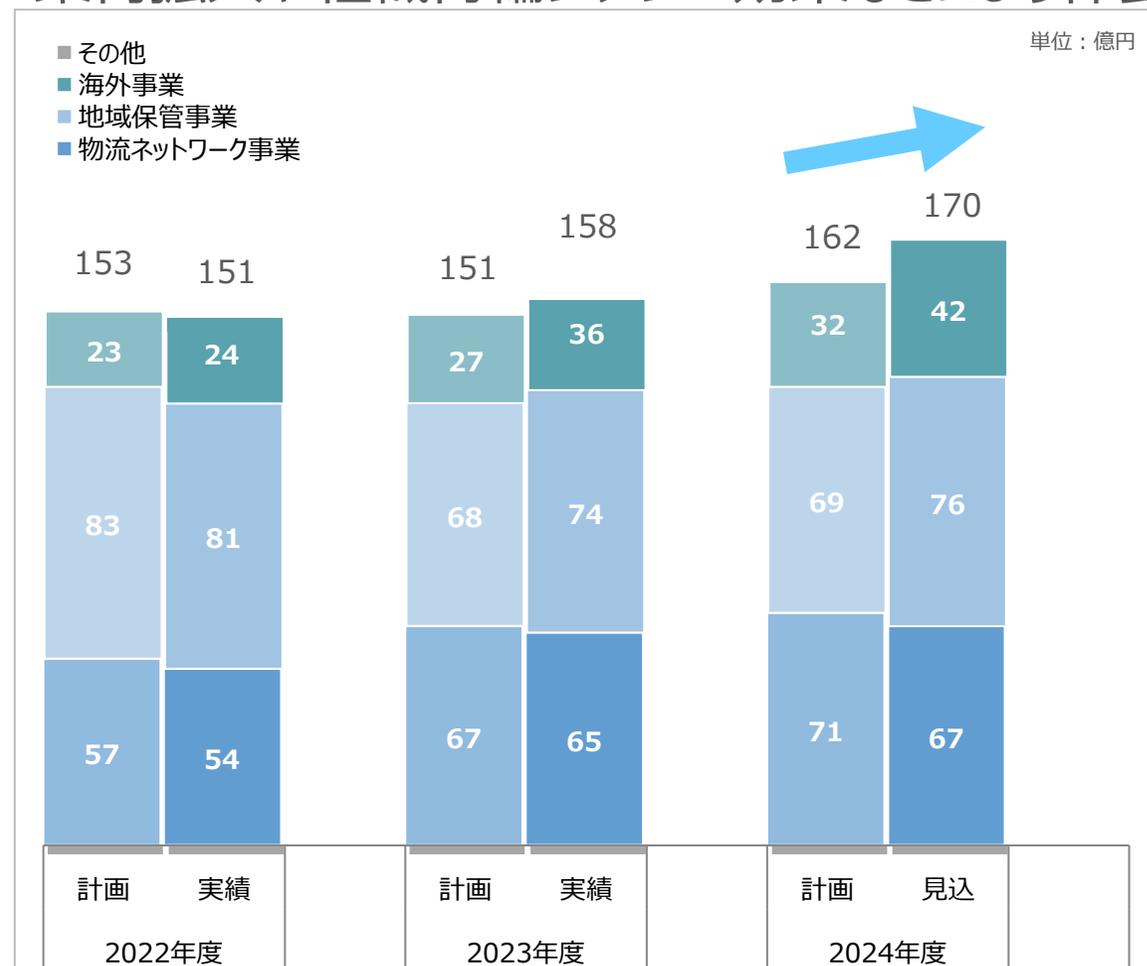
荷動き鈍化に対して集荷拡大で影響を軽減し
海外拠点新增設などにより伸長



注：2023年度より地域保管事業の一部を物流ネットワーク事業に移管

営業利益

各種コスト高騰影響の一部軽減とともに
集荷拡大や組織再編シナジー効果などにより伸長



注：2023年度より地域保管事業の一部を物流ネットワーク事業に移管

3-②. 次世代輸配送基盤の構築

- トラックドライバー2024年問題への適切な対応
- 持続可能な輸配送基盤の構築に向けた他社アセットの効果的な活用

次世代輸配送システム「SULS」の拡充

24年度重点施策

- ・北関東エリアに新たにゲートウェイ（GW）機能を設置
- ・「SULS」の新路線開通（東北、静岡、新潟）

- ① 東名阪を中心とする「SULS」のさらなる拡充
(24年度末時点で計50本のトレーラーを保有する計画)
- ② 工場発幹線及びマザーデポ発幹線の共同化による取扱い拡大
- ③ 西日本エリア発の幹線上り貨物の集荷拡大

コーディネータ力の発揮により、多様な顧客ニーズへ対応



➤ 当社拠点を起点とした東北エリアを包括する商品供給網の構築と全国への展開

現状



特徴

- ① 当社の関東拠点を起点に、北関東・東北のリテール事業12拠点を繋ぐ物流網を完備
- ② 納品先対象：当社運営拠点に限定

目指す姿

時代に求められる新しい低温物流ネットワークの構築



■ネーミングコンセプト
「ニチレイロジグループがつなく」
「顧客と繋がる」を表現

特徴

- ① 当社の既存拠点・物流網を中心に、他社・協力会社アセットを活用した拠点と物流網の強化
- ② 上記の1拠点に納品すると、東北エリアであれば他社運営拠点を含め、どこにでも納品できる体制を構築
順次エリア拡大し、最終的には東北全域を対象
- ③ 一部拠点で在庫を保有（ランニングストック）することで、より効率的・安定的なサービスをご提供

今後、東北エリアから開始し、順次全国へ展開

3-②. データドリブン運営の実現に向けた取組みの推進

- 作業の全体最適化に向けた運営モデルの構築及び低温環境下での技術検証の加速
- R&Dセンターの設置による新技術の検証スピードアップ

データドリブン運営の実現に向けたロードマップ

STEP1: 庫内作業のデジタル化推進

STEP2: データをもとに作業示唆

STEP3: 作業指示の半自動化

2023年度まで

2024年度重点施策

次期中計以降

現在地

個別作業の最適化

・現場作業におけるタブレット利活用の推進

タブレット導入拠点

入荷検品作業のタブレット化

DC72拠点

全国80%超

・低温環境下での先端技術の実証実験実施



作業の全体最適化

① 既存業務におけるデータドリブン運営モデルの構築

・モデル拠点での可視化・業務プロセスの標準化

② R&Dセンターの設置 (2024年度中の設置を予定)

・制約なく各種実証実験が可能、検証加速

③ 現場運営における人財基盤の強化

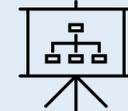
・経営と現場の視点をあわせもった「アナリスト人財」の育成強化



人と機械のベストミックス追求



徹底的な可視化とデータに基づく事業運営



業務プロセスの標準化の推進



アナリスト人財による経営視点での現場運営



先端技術の活用加速による作業負荷軽減

3-②. 欧州における港湾ビジネスのさらなる拡大

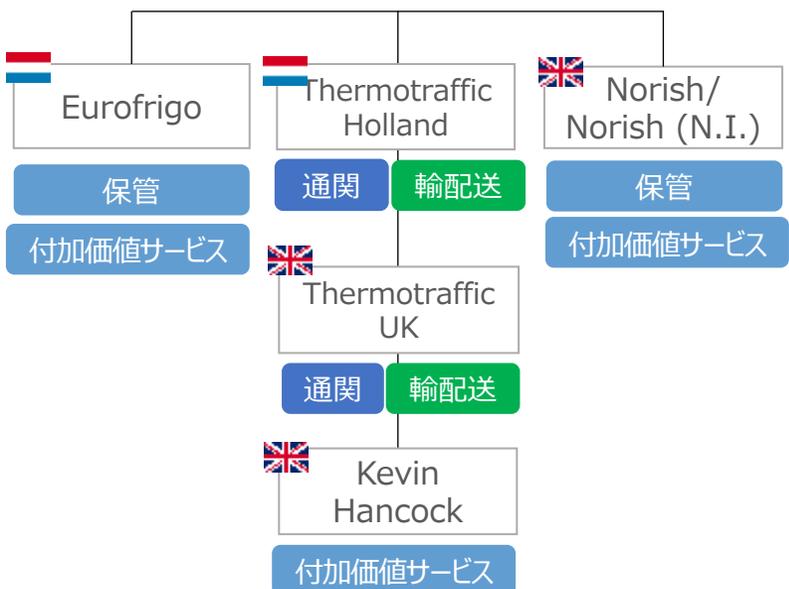
- ▶ オランダ・UKにおける組織再編を通じたシナジー効果の発揮
- ▶ グループ内連携の強化による港湾ワンストップサービスのさらなる拡大

グループシナジーの発揮による収益拡大

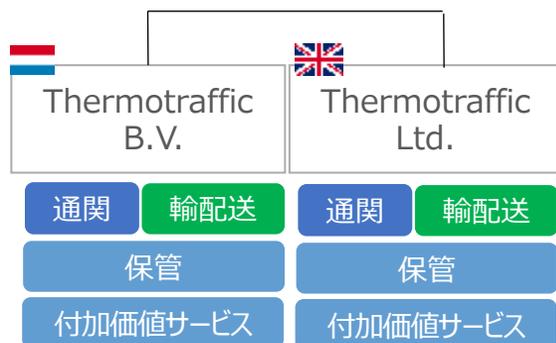
オランダ及びUKにおける組織再編の実行

- ・欧州事業の中核である港湾ビジネス基盤のさらなる強化
- ・経営効率の向上やオペレーションの効率化などのシナジー効果の創出
- ・「Thermottraffic」への社名統一による欧州主要港湾における総合力の発揮

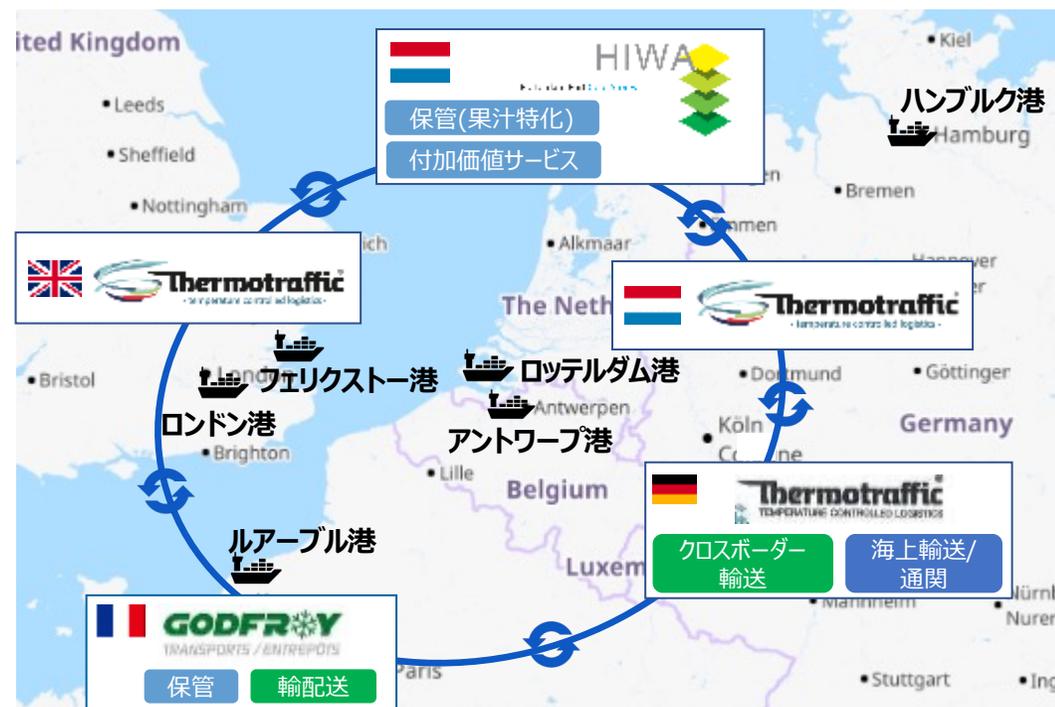
<～2023年>



<2024年1月1日～>



西欧における事業展開状況



欧州主要港湾におけるシナジー効果の創出を通じた
港湾ビジネスのさらなる収益拡大を目指す

3-②. ポーランド事業基盤の強化

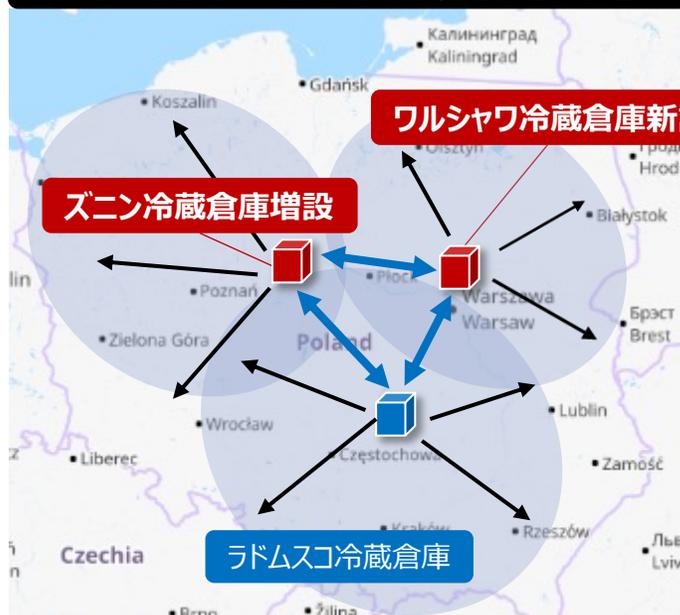
- 基幹拠点の能力増強による小売り向け冷凍物流のさらなる拡大及び川上顧客の獲得
- クロスドック機能の拡充及び運送効率化による収益性の向上

ズニン冷蔵倉庫の増設



設備能力	46,404トン (増設棟：20,104トン)
稼働予定	2024年7月予定
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・既存顧客を中心とする旺盛な保管需要への対応 ・保管・運送ワンストップサービスのさらなる拡大

ポーランドにおける事業展開状況



新增設後の同国における
当社設備能力計：約14万トン

ワルシャワ冷蔵倉庫の新設



設備能力	42,552トン
稼働予定	2024年4Q予定 (自動車も含めたフル稼働：2025年1Q予定)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏向け物流ニーズのさらなる獲得 ・周辺拠点の集約による運営効率化

3-②. タイ バンコク北部冷蔵倉庫の新設

- 食品関係企業の集積地であるバンコク北部における旺盛な低温物流ニーズへの対応
- 庫腹増強及び首都圏エリアの輸配送ネットワークの構築によるタイ事業基盤の拡充

新設冷蔵倉庫の概要



所在地	ナワナコン工業団地内（1971年にタイ初の工業団地として開設）
稼働予定	2025年春予定
設備能力	33,640トン
機能・特徴	<ul style="list-style-type: none">・保管・運送ワンストップサービスの提供・多温度帯保管、凍結・解凍・軽加工の付帯設備・EST No.※1 及びBRC Global Standard※2の取得

※1 EST No. : タイDLD（農業協同組合省畜産振興局）が発行する畜産品の輸出施設の許認可。

※2 BRC Global Standard : British Retail Consortium（英国小売協会）の食品安全規格。

新設のねらい



首都圏での庫腹増強及び輸配送ネットワークの構築を通じて保管・運送需要のさらなる獲得を目指す

- ▶ ベトナムでの新設冷蔵倉庫の稼働によるASEAN事業のさらなる拡大
- ▶ 工場向け原料や製品などの旺盛な保管需要の着実な取り込み

新設冷蔵倉庫の概要

所在地	ロンアン省 ロンハウ工業団地 Lot D.03, No.1
稼働予定	2024年7月予定
設備能力	42,985トン
保管温度帯	冷凍・冷蔵・定温
機能	・保管・急速凍結・クロスドック
特徴	・接車バース：32バース ・移動ラック、急速凍結室 ・太陽光パネル
ターゲット顧客	・食品メーカーや食品卸など（ローカル企業・日系企業）
商材	・工場向け原料（畜産品、水産品、果汁など） ・日本や欧米向けの製品（冷食、水畜加工品など）

最新状況

・建屋はほぼ完成、現在、稼働に向けた最終準備の段階。



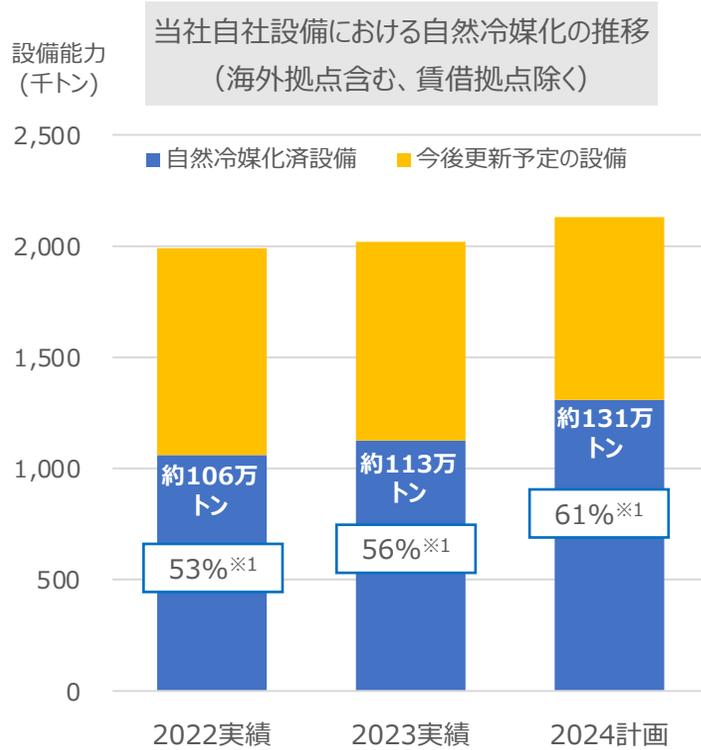
ベトナムの経済発展とともに高まる低温物流ニーズの獲得を通じて新設冷蔵倉庫の安定稼働を目指す

3-②. サステナビリティの推進

- 2030年ニチレイグループ目標の達成に向けた自然冷媒化の推進
- 太陽光発電及びオフサイトPPAの拡充によるCO2排出量の削減

自然冷媒化の推進

・24年度計画：自然冷媒化率61%を目標



※1：対象範囲の見直しにより、実績%・計画%ともに変更

太陽光パネル・オフサイトPPAの拡充

- ・23年度末時点：国内11拠点、海外4拠点で稼働済
- ・24年度以降に設置が確定している拠点：現時点で国内12拠点、海外4拠点を予定



稼働済拠点
設置予定拠点

● オフサイトPPA

- 東北地区 (2024.3~) ロジグループ12拠点
- 四国地区 (2024.3~) ロジグループ5拠点

今後、他地区でも取組み拡大を検討



1. 企業概要

2. 2024年3月期 決算概要

3. 中期経営計画

①進捗状況

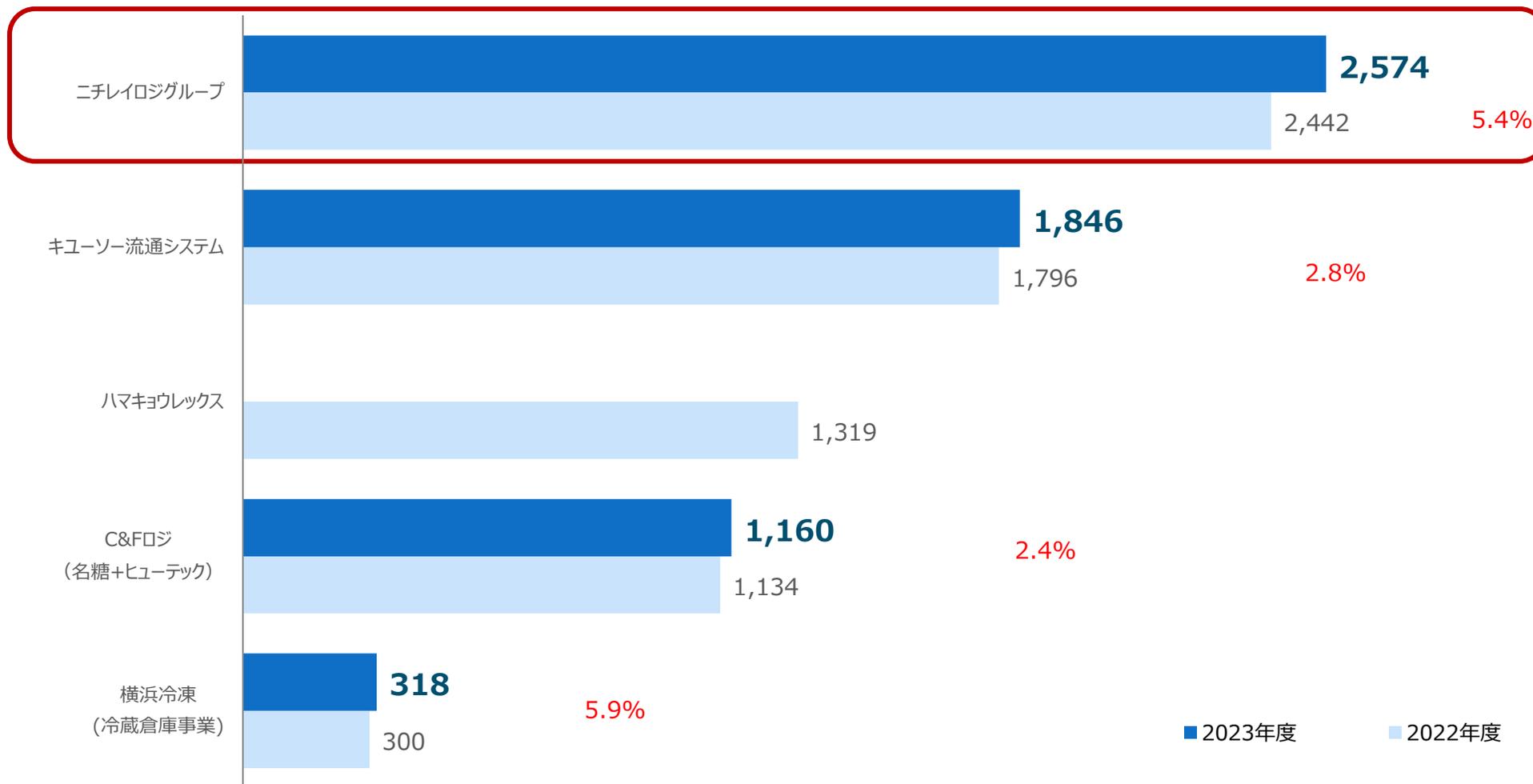
②2024年度重点施策

4. 参考資料

[ポジション①]

単位：億円

主要低温物流企業の売上高

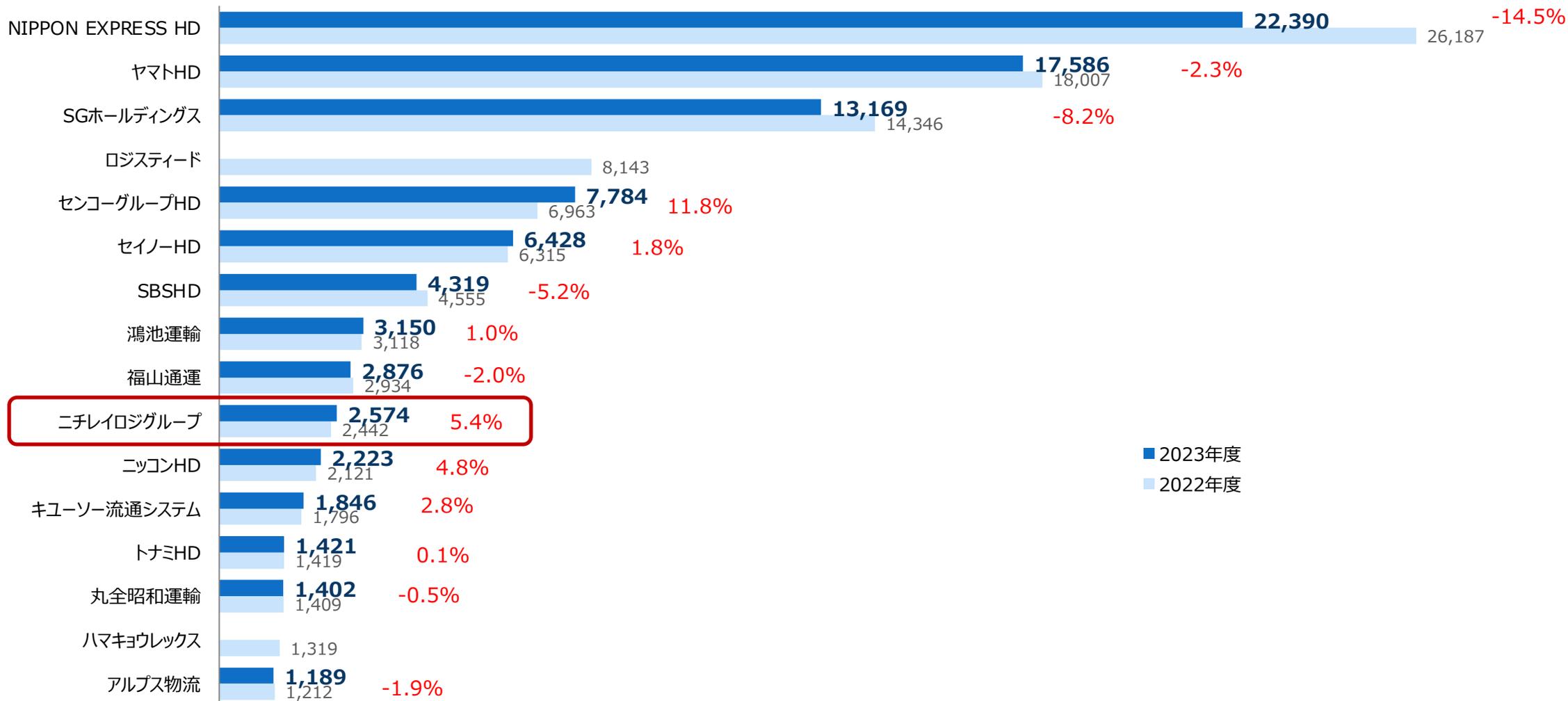


※低温物流を主とする物流会社を選定
 ※各社決算短信（2024年5月16日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

[ポジション②]

単位：億円

主要物流企業（陸運）の売上高



※トラックによる輸送を主とする物流会社を選定

※各社決算短信（2024年5月16日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。決算未発表会社の業績については空白。

4. 参考資料

[ポジション③]

冷蔵倉庫設備能力国内ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力(ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,566,652	8.4%
2	横浜冷凍(株)	977,826	5.3%
3	(株)マルハニチロ物流	648,476	3.5%
4	(株)C&Fロジホールディングス	588,016	3.2%
5	東洋水産(株)	580,404	3.1%
6	日水物流(株)	433,339	2.3%
7	(株)松岡	362,717	2.0%
8	(株)ランテック	319,414	1.7%
9	(株)二葉	295,997	1.6%
10	(株)キューソー流通システム	281,658	1.5%
11	鴻池運輸(株)	279,578	1.5%
12	日本物流センター(株)	239,631	1.3%
13	五十嵐冷蔵(株)	235,509	1.3%
14	(株)ハウスイ	215,179	1.2%
15	第一倉庫冷蔵(株)	205,699	1.1%
16	(株)ムコオ	179,354	1.0%
17	(株)兵食	175,973	1.0%
18	藤林グループ	150,620	0.8%
19	山手冷蔵(株)	142,128	0.8%
20	福岡運輸(株)	140,152	0.8%

※出所：日本冷蔵倉庫協会「冷蔵倉庫の諸統計 2022年版」をもとに加工

冷蔵倉庫設備能力世界ランキング

No	Company	Locations	Capacity(m3)
1	Lineage Logistics	United States,etc	83,817,728
2	Americold Logistics	United States,etc	42,228,844
3	United States Cold Storage	United States,etc	11,483,902
4	NewCold Cooperatief U.A.	United States,etc	7,227,143
5	Nichirei Logistics Group, Inc	Japan, etc	5,639,155
6	Emergent Cold LatAm	United States	4,445,738
7	Constellation Cold Logistics	Belgium, etc	4,113,726
8	Frialsa Frigorificos S.A. De C.V.	Mexico	3,560,265
9	Interstate Warehousing, Inc	United States	3,434,852
10	FreezPak Logistics	United States	3,264,497
11	Superfrio Logistica Frigorificada	Brazil	2,306,162
12	Vertical Cold Storage	United States	2,189,853
13	Arcadia Cold Storage & Logistics	United States	2,132,710
14	Snowman Logistics Ltd	India	2,111,394
15	Conestoga Cold Storage	Canada	2,007,869
16	Congebec Inc.	United States	1,863,245
17	Comfrio Inteligência em Soluções Logísticas S.A.	Brazil	1,681,128
18	Magnavale Ltd.	United Kingdom	1,506,573
19	CORE X Partners	United States	1,438,493
20	Friozem Logística em Temperaturas Controladas	Brazil	1,141,998

※出所：IARW(世界冷蔵倉庫協会)「Global Top25 List」2024年4月資料をもとに加工

[損益計算書（連結）]

単位：億円、端数四捨五入、（ ）内利益率

	前期		当期		前期比
売上高	2,442		2,574		+5.4%
営業利益	151	(6.2%)	158	(6.2%)	+4.5%
経常利益	145	(5.9%)	154	(6.0%)	+6.7%
税引前利益	141	(5.8%)	154	(6.0%)	+9.6%
当期純利益	90	(3.7%)	101	(3.9%)	+11.3%

※利益率は1円単位で計算

4. 参考資料

[損益計算書（セグメント別）]

（単位：百万円）

		前期	当期	前期比	増減率
売上高	物流ネットワーク	114,532	118,591	4,059	+3.5%
	地域保管	62,568	63,814	1,246	+2.0%
	海外	63,745	71,137	7,392	+11.6%
	その他・共通	3,363	3,813	449	+13.4%
	合計	244,207	257,355	13,148	+5.4%
営業利益	物流ネットワーク	6,094	6,473	379	+6.2%
	地域保管	7,432	7,442	10	+0.1%
	海外	2,406	3,555	1,149	+47.7%
	その他・共通	▲ 784	▲ 1,638	▲ 854	-
	合計	15,147	15,833	685	+4.5%

注：物流ネットワーク事業に地域保管事業の業務を一部移管したため、前期の数値を移管後の数値に組み替えて比較

[財務諸表分析]

		前期末	当期末
総資産	百万円	202,234	217,338
負債	百万円	103,119	106,079
うち、有利子負債	百万円	61,623	58,716
うち、有利子負債（リース債務除く）	百万円	47,602	45,035
純資産	百万円	99,115	111,259
D/E比率	倍	0.6	0.5
D/E比率（リース債務除く）	倍	0.5	0.4
自己資本比率	%	48.8%	49.9%
売上高	百万円	244,207	257,355
当期純利益	百万円	9,037	10,057
自己資本利益率 (ROE)	%	9.2%	9.3%
総資産利益率 (ROA)	%	4.5%	4.6%
総資産回転率	倍	1.2	1.2

注：D/E 比率の算出方法：有利子負債÷純資産（少数株主持分を除く）

[設備投資の状況]

〈設備投資等〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
13,512	21,448	+7,935	20,000	△ 1,448

〈減価償却費〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
11,265	12,135	+869	13,700	+1,564

〈主な設備投資〉

(単位：百万円)

完了年月	会社名 事業所名	所在地	設備の内容	設備投資 総額	当期計上額	完成後の 増加能力
					(既計上額)	
2024年 1月	(株)キョクレイ 神戸六甲物流センター	兵庫県 神戸市	物流センターの 新設	8,609	4,538 (8,609)	設備能力 27,691 t
2024年 5月 (予定)	Nichirei TBA Logistics Vietnam LLC	ベトナム ロンアン省	物流センターの 新設	※2,580	1,458	設備能力 42,985 t
2024年 5月 (予定)	Frigo Logistics Sp.z o.o.	ポーランド ズニン市	物流センターの 増設	※2,287	103	設備能力 20,104 t
2024年 12月 (予定)	Frigo Logistics Sp.z o.o.	ポーランド ノヴィ・ドゥヴル市	物流センターの 新設	※4,385	1,535	設備能力 42,552 t

注1： 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

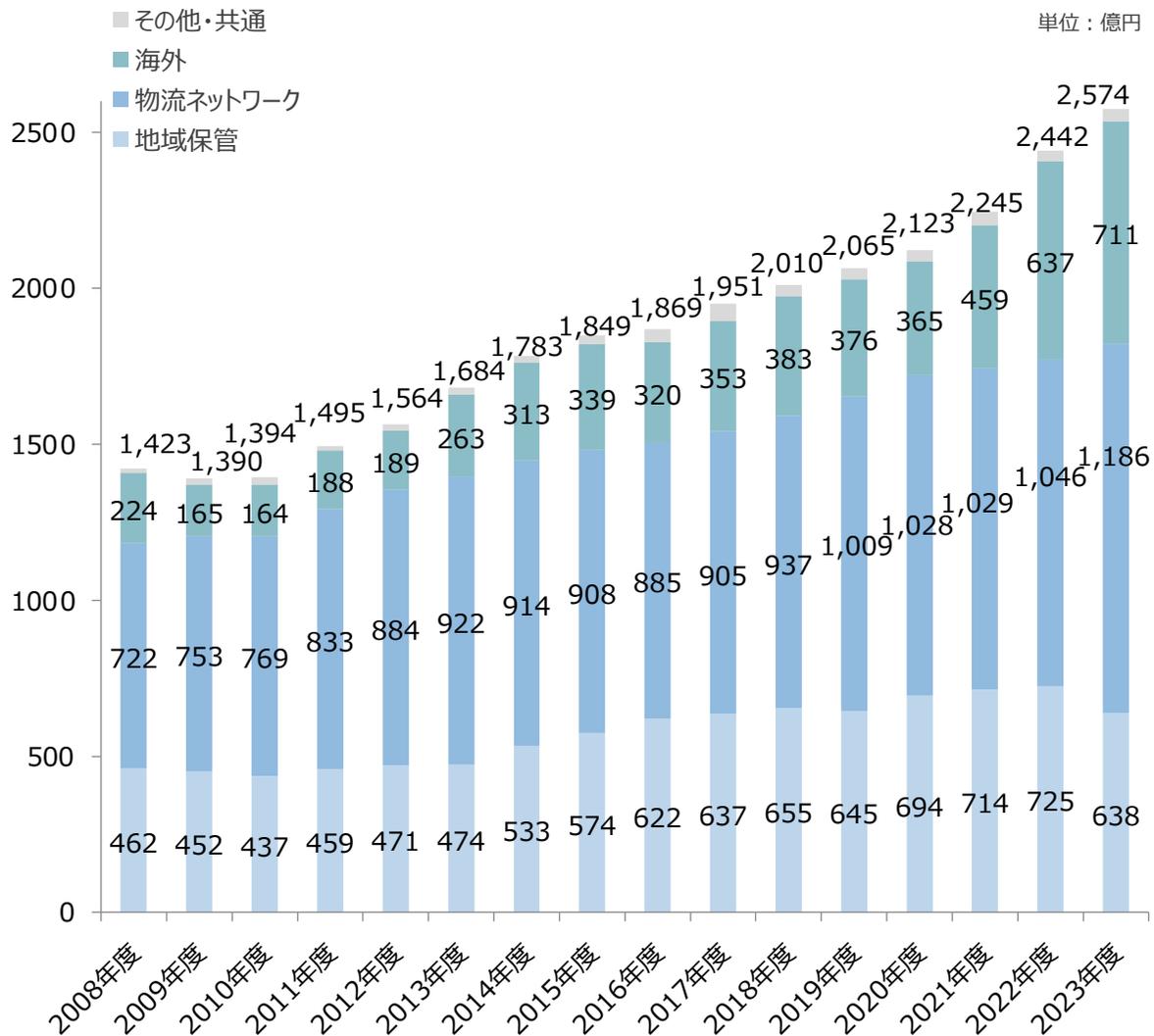
注2： 「完了年月 (予定)」は設備引き渡し予定の日付を記載しております。

注3： 「設備投資総額」の※は、計画数値であります。

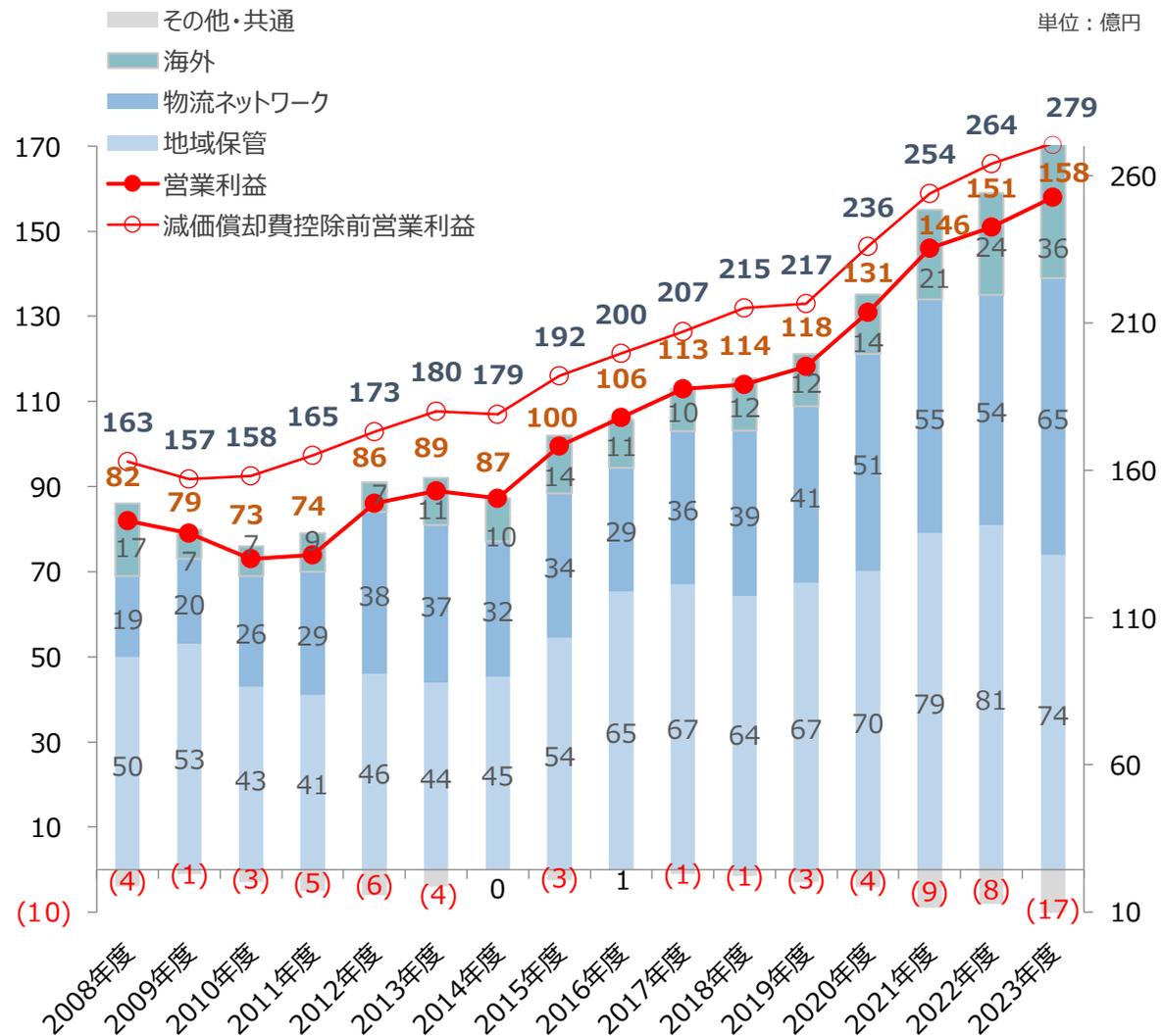
4. 参考資料

[売上高・営業利益推移]

売上高推移



営業利益推移



この説明資料に記載されている当グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られた当グループ経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、経済情勢および業界環境、為替レート変動、品質保証体制確立の実現性、新サービスの実現性、成長戦略とローコスト構造の実現性、当グループと他社のアライアンス効果の実現性、偶発事象の結果、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響など、リスクや不確実な要素を含んでおりますので、業績見通しのみに全面的に依拠して判断されることは、お控えいただきますようお願いいたします。

【お問合せ先】

株式会社ニチレイロジグループ本社 経営企画部

N1040X003@nichirei.co.jp

株式会社ニチレイ 広報IR部 広報グループ

N1000X036@nichirei.co.jp

株式会社ニチレイロジグループ本社 ホームページ

<https://www.nichirei-logi.co.jp/index.html>

